

平成28年度学校教育自己診断について

1. **実施時期** 保護者：平成28年12月06日～09日
教職員：平成28年11月21日～25日
2. **回収率** 保護者：109/176 62%（前年度63%）
教職員：127/134 95%（前年度68%）
小学部39/39 100%
中学部24/24 100%
高等部65/71 92%

3. 調査に関する改善

設問の量と質を見直し、回収率を上げ的確で信頼性のある学校教育自己診断を行い、本校の強みと課題を把握し、めざす学校像と中期的目標を達成する。

	保護者宛の学校教育自己診断票	教員宛の学校教育自己診断票
ねらい	時代の流れに即した質問項目や、学校全体を俯瞰的に評価できるような質問項目に揃え、現在の本校の的確な評価を得るため。	質問の主語を明確にして、アンケート結果を個人因子と集団因子に分別して課題分析し、組織力（チーム学校）の向上を目指すため。
設問の量	45項目 → 26項目	41項目 → 27項目
設問の質	<ul style="list-style-type: none"> ■ 質問内容の類似・重複のある質問項目をまとめる。 ■ 近年の支援学校を取り巻く環境の変化(医療・福祉など)へ対応する。 ■ 府立肢体不自由校5校を参考として、近年、支援学校や支援教育に求められる役割等を把握する。 	

4. 昨年度からの課題

- 情報発信の内容の検証
- 情報発信の方法の検証 ※教育方針・交流・進路指導・医療的ケア・防災防犯対策
- 学校教育自己診断の各設問の意図の検証
- 会議・研修の在り方
- 人権尊重の姿勢に基づいた児童生徒指導の点検

5. 今後の課題

- 危機管理に係わる内容の情報発信の検証
- 会議・研修の在り方
- 学校経営計画(めざす学校像・今年度の重点目標)の共有と浸透
- 各学部目標・各教科領域の目標の共有と浸透
- 学校教育自己診断の活用。この自己診断の結果と分析、学校協議会からの意見を全教職員が共有し課題意識を持つ